

ひだまり

2021年 2月号

今度の冬は暖かい日があったかと思えば急に冷え込んだりと、衣類調整に悩む日が多かったですね。

いよいよコロナの発生も近場で多く聞こえるようになりました。コロナ対策のお知らせを以前挟みましたので、ご家族様と今一度ご確認して頂き、気を引き締めてコロナの冬を乗り切っていきましょう。

1月の思い出



例年であれば一月に、ご家族様と一緒に行けない方を対象に初詣を企画させていただきましたが、今年はコロナの影響で中止となりました。デイケアで数少ない外に出かける企画でしたので、楽しみにされていた方もいらっしやっただかと思えます。今年の願いこそ「コロナが早く終息してほしい」とお参りしたかったです。中止になり私たちもとても残念です。体調を整え来年こそは皆で初詣に行けると良いですね。今年文化祭も中止になりましたので、皆様の頑張りの発表の場として玄関前のスペースにミニ文化祭と称し、作品を飾らせていただいています。素敵な作品が出来上がっていますので一度ご覧ください。

布マスクとサージカルマスクとの違い

玉名や荒尾でもクラスターやコロナの発症が確認されたことを受け、デイケアでは今年に入り布マスクではなくサージカルマスク（使い捨てマスク）の着用をお願いしています。

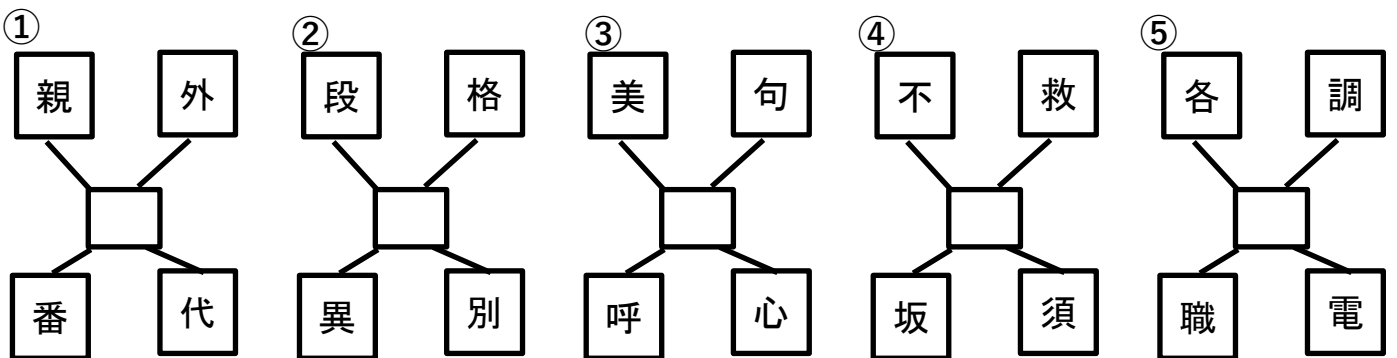
突然のお願いで戸惑った方もいらっしゃるかと思いますので、布マスクとサージカルマスクの違いをお伝えしたいと思います。

まず大きな違いは織り方や素材の違いです。一般的に布マスクであれば綿やポリエステル、サージカルマスクは不織布で作られています。新型コロナウイルスの多くは飛沫感染によって広がっていきます。その中でもより細かく浮遊しやすくなった飛沫、エアロゾルからも感染する可能性もあります。マスクの素材が細かくおられていればいるほどエアロゾル化したもの防げるようになります。布マスクは素材や布をいくつか重ねているかによりフィルター性能に大きく違いが出てくるといわれています。それだけでなく帯電加工させた不織布や絹、シフォン等マスクの素材によっては静電気が蓄えられており、静電気が飛沫をとらえてくれます。静電気は水が付着すると電気が逃げる為、マスクを洗ったり、長時間使用によって呼気の水分にさらされ、機能が落ちる研究結果もあります。

布マスクとサージカルマスクの性能の違いについても言及していきたいと思えます。粒子のサイズによりマスクを通すかの研究もおこなわれており、その結果、綿のマスクはポリエステルマスクよりサージカルマスクの順でより小さな粒子まで通さなかったとなっております。布マスクでも飛沫は80パーセントは防げるとなっていますので三密を避けられる場合は一定の効果はあると思えます。しかしデイケアでは定期的な手指の消毒とアルコールでの拭き上げ、空気の入れ替え等コロナの対策は徹底しておりますが、お隣同士で話が弾むこともあるでしょうし、5〜6時間数十名の方がデイルームに居る事、一緒に食事をする事などを考えるとより性能のよい物を選ぶということが大事かと考えられます。自分の身を守る為にも皆様ご協力お願いいたします。

脳トレクイズ

問題：□の中に『点 交 急 差 停』のいずれかを入れて二字熟語を作成してください



①交 ②差 ③点 ④急 ⑤停